

# M1. 「JFA メンバーシップ制度」の推進

# M4. 中学生年代の環境充実

# M9. 地域／都道府県協会の活動推進

## 種別を超えた交流が 生み出すもの

文：JFA・PHQ 永井雅史／湯川和之

各都道府県サッカー協会では、プレジデント・ミッションに掲げる「『JFAメンバーシップ制度』の推進」に基づき、種別や年代を超えた交流が積極的に行われている。

今回は、北海道、秋田県、千葉県を取り組みを紹介する。

### (財)北海道サッカー協会 大学と連携した指導者養成と 自由参加型1年生リーグ

北海道サッカー協会の「大学と連携した指導者養成」と「自由参加型1年生リーグ」の活動視察のため、北海道教育大学石見沢校グラウンドを訪ねた。

#### 活動拠点

北海道サッカー協会は、地域貢献・地域支援を理念に掲げる北海道教育大学とともに「大学と連携した指導者養成」と「自由参加型1年生リーグ」を展開している。活動の拠点は北海道教育大学石見沢校サッカー場。同校の指導者ライセンス取得のための講座の受講者を中心となって実施する地域連携事業「サッカーカレッジ」として毎年5〜6月、5回にわたって行われている。長年、この活動に携わってきた、同校サッカー部の越山賢一監督の尽力でグラウンドのスケジュール調整が利きやすいことも本活動を後押しする力となった。

#### 大学生指導者の養成

日本サッカー協会(JFA)の公認C級指導者ライセンスを取得した2年生とこれから取得を目指す1



大学生は中学生にとってお兄さんの存在だ

年生の北海道教育大学サッカー部員が、毎週月曜日の夕方、石見沢近隣の50〜70人の中学1年生を岩見沢校グラウンドに集めて指導する。中学生ブレイヤーは現在、南空知地区中体連サッカー大会を目前に控えているが、出場機会が少ない1年生選手にとっては、この活動がプレー機会を確保する面で非常に重要となっている。

指導者を務める大学生が当日の練習プログラムについて綿密な打ち合わせをした後、トレーニングに入るのだが、この指導の様子を空知サッカー協会に所属する大人のインストラクターがチェックし、必要に応じてアドバイスをを行う。この日の練習後は、インストラクターから「中学生の反応を見て練習の意図が伝わっていないだったので、臨機応変に練習内容を変更したのには非常に良かった」といった「メント」が大学生指導者に出されていた。これらのアドバイスは次週までにまとめられ、学生に提示される。

#### 活動の効果

選手たちが実戦を積むのは当然のメリットであるが、そのほかに幾つもの効果が生まれている。「うれしい相乗効果ですね」と担当者の小山田学氏は語る。その効果をいくつか紹介する。

#### ・中学生に関して

例えば、一緒に活動した中学生同士が顔なじみになることで、それぞれが試合をした際、相手をおいやるプレーが増えて悪質なファウルが減る。あるいは、高校進学の際に仲良くなったメンバーで誘い合わせて地元の高校に進学する選手も増え、他の地区への選手の流出が少なくなった。そういったことが、結果として地域の2種年代の強化にもつながっている。

#### ・大学生に関して

大学生指導者について言えば、本活動を通じて中学生とじかに接する機会が増え、生徒への接し方が身についてくる。教育大学であ



地元指導者も大学生をインストラクターとしてサポート

るため将来教職を目指す学生が多いが、教育実習の機会でも物おじすることがなく、教育実習先からの評判も非常に良い。卒業後は即戦力としての期待も高い。

#### ・インストラクターに関して

指導者としてのキャリアが長い人が多く、普段は選手を指導する機会が多い。本事業では大学生の指導にアドバイスをを行うことで新たな刺激を受け、自らの指導を振り返る場にもなっている。学生時代に同校でサッカーを学んだ人が指導者となり、今度はインストラクターとして協力し合うなど、指導者育成サイクルも機能し始めた。

本活動に取り組んでいる指導者の多くは岩見沢校出身で、学生時代からお互いを知っているというメリットがある。同校の地域貢献・地域支援の理念を具現化した本活動は、前述の通り、多くの効果を生み出しており、他の都道府県にとっても参考になるのではないだろうか。

## (社)秋田県サッカー協会 2:4種合同練習会

本誌2009年1月号(No.297)でも紹介したが、秋田県協会では「2種(高校生)・4種(小学生)の交流練習会」という種別を超えた新たな取り組みが行われている。

### 憧れのお兄さんたちとの交流

全日本少年サッカー大会秋田県予選が終了したばかりの7月5日、八橋運動公園陸上競技場に県内の小学生選手7人を集め、トレセンの選考会を兼ねた練習会を実施した。

当日、指導に当たったのは、8月の全国高校総体に県代表として出場する秋田商業高校(以下、秋商)の長谷川大監督と高橋浩コーチ、そしてレギュラーの選手たちだ。秋商の選手たちは期末試験の合間に参加した。

今回の練習会の主催は4種委



お兄さんコーチを前に緊張する小学生

員会だったが、県協会の川口房勇会長、熊谷明夫専務理事、そして古仲修47FAユースダイレクター／3種委員長も視察に訪れ、運営ではキッズ委員会のメンバーがサポートした。最初に古仲ユースダイレクターがあいさつし、小学生選手に対して「今日はサッカーを楽しんでください。そして高校生のお兄さんたちと必ずお話をすること。『ありがとう』という言葉でも良いし、もし分からないことがあったら必ず質問をすること。お話で分からない時はお兄さんたちが実際にプレーしてくれまして今日の取り組みへの心構えが伝えられた。

朝9時の開始時間を15分早めてプログラムがスタート。小学生選手を10、11人ずつの7グループに分け、各グループに指導サポートスタッフとして2人の高校生選手が加わった。まずは自己紹介に始まり、その後、ウォーミングアップを経て、1対1、シュート、そして小学生対高校生の交流試合を行った。長谷川監督と選手たちは、前日のチーム練習の後、マーカーをどのように配置するか、選手へ



秋田商業の選手が各グループで指導サポート

の指導シミュレーション等、ひと通りすべてのプログラムを実践してその日の練習会に備えていた。選手の中には、指導ポイントなどを記入したノートを持参している者もあり、休憩時間にこっそりノートを確認する姿がほほ笑ましかった。

### グラスルーツ活動における種別を超えた連携・協力

企画提案者の一人である小川武夫4種委員長に話をうかがった。「県内では既に2種と3種の交流は進んでいたが、2種と4種を行うようになったのは今年から。2種・3種・4種の指導者が集まった時の雑談の中で『何かできないか』という話からスタートした。伝統校でもある秋商の選手は、子どもたちのあこがれの存在。そういった選手とボールに触れる機会



練習会の最後には、会話が弾む

は貴重な交流の場となっており、実際、4種の指導者にとっても勉強の場にもなっている。口頭で教えることが中心になってしまいが、実際のプレーを見せることも必要だと思った。2カ月に一度のペースで実施しているが、今後は月1回に増やしていきたい。今回は秋商の選手に参加してもらったが、このような取り組みが県全域に広まっていけば良い。県内に充実した施設がないので、近くの高校のグラウンドに行けばサッカーを教えてもらえるスクールがあるということでも楽しみが増えるようになることが理想」。実際、秋商の選手たちは4月に地元小学校で行われたキッズプログラムにも参加しており、積極的に活動しているようだ。

### できることから始めるサッカーを通じた地域貢献

今回の練習会は当初、秋商のグラウンドで行われる予定だったが、当日、日本フットボールリーグ(JFL)のTDKSC対SAGAWASHIGAFCの試合があり、TDKSCが協力、急きよ会場を提供してもらった。芝の上でサッカーをする機会が少ない小学生選手は、芝生の感触を確かめながら高校生との練習ゲームを楽しんでいた。

古仲ユースダイレクターは、「県内では少子化や人口減といった問題がある。その一方でボランティア

アに近い形で選手の指導に多くの  
人たにかかわってもらっている。  
4種年代の指導者は多忙を極  
めており、皆が協力していかな  
ければいけないということを各種別  
の指導者が痛感している。今回、  
指導に当たってくれた秋商の長谷  
川監督もそんな仲間の一人。今回  
は秋田市での開催となったが、本  
荘田利地区や県南地区でも近い  
うちにこのような取り組みがス  
トでできると思う。県内でこのよ  
うな活動が増えることがとても大  
切。視点を変えた見方をすれば、  
高校生の時にふとしたきっかけで  
指導者を目指すことを気付かせて  
あげることもできるのではない  
か。4種なら十分指導できる秋商  
の選手も今日、何人かいた。

練習後、秋商の山谷繁輝キャプ  
テンから今日は皆さんと一緒にサッ  
カーを通じて交流することができ  
ても楽しい時間を過ごすことができ  
ました。これからも応援よろしくお  
願いします」とあいさつがあった。

プロのクラブや選手だけが地域  
貢献や社会貢献に参加するのだ  
なく、種別や年代を超えた交流を進  
めることで、さまざまなことから進めるこ  
とで多くのサッカーファミリーが  
参加でき、交流が進むのではない  
だろうか。

## (社)千葉県サッカー協会 キッズサッカーコミット

千葉県サッカー協会では  
「M3・JFAキッズプログラム  
の推進」の取り組みの中で「キッズ  
サッカーコミット」という活動を進  
めており、1999年よりキッズと  
中・高校(3・2種年代)の選手およ  
び関係者の交流においてサッカー  
の楽しさや遊び方を伝えている。

### キッズサッカーコミットの由来

「キッズサッカーコミット」とい  
呼ぶ名は「コミット(commit)  
かわる」という言葉の由来から生  
まれたもの。キッズが多くの人た  
ちのかかわりの中で健全に成長し  
ていく環境をみんなで作ろうとい  
う目的で始まった。千葉にホームタ  
ウンを置くJクラブのジェフユナイ  
テッド千葉、柏レイソルの育成普及



活動拠点は高校のグラウンドなどとなっている

グループをはじめ、各自自治や郡  
市協会、県内の私立・公立高校を中  
心とした学校の協力のもとに活動  
を進めており、千葉県のキッズサッ  
カーの主要な取り組みの一つとなっ  
ている(千葉県サッカー協会キッ  
ズ委員会)

県内の公立小・中・高校におい  
て、いじめ・不登校・中途退学等  
の増加傾向に歯止めがかからない  
という学校の基本調査が明らかに  
された。こうした傾向について県  
教育委員会では、①子どもの生活  
体験や社会体験が少なくなり、人  
間関係をつくる力が弱まった、②  
家庭、学校で過度のストレスを受  
けている、③自立心、自己抑制力  
が養われていないといった要因が  
複雑に絡み合っている、との認識  
を示した。「われわれが子どもたち  
と向き合う中でも危惧される点で  
あると感じている。そのような子  
どもの悩み、問題行動の改善策の  
一つとして「コミット」を提唱した  
い」とキッズ委員会は考えている。

### 活動を通じての効果 コミュニケーション

「コミット」は、キッズと中・高

校生・大学生・保護者といったサッ  
カー愛好者らがボールを介した遊  
びやゲームなどを通して身体を「動  
かす」中で、スポーツへの愛着や人  
との触れ合いを大切にできる健全  
な精神を育む場と位置付けている。  
また、参加する中・高校生にとっ  
ても、幼児・小学校低学年の子ど  
もたちと接することで、意思の伝  
達や表現・自制心などコミュニケー  
ションスキルを学ぶ場に成り得る  
施策とらえている。

募集は、キッズ委員会指導部と  
普及グループが中心となり、県内  
の3支部(北部・中部・南部)を拠点  
に郡市協会および4種委員会の8  
ブロック分布の幼稚園・保育所・4  
種登録チーム等にアナウンスした  
り、会場となるグラウンドの近隣  
に住むキッズに直接、参加を呼び  
かけている。活動ではキッズサポ  
ーター・キッズリーダーと楽しく遊  
び、会話やスキップを取ることで相  
互の理解を図り、連帯感と充実感  
を持つように心がけている。

サッカーの楽しさを伝えるアシ  
スタント学生コーチをキッズサポ  
ーター(現在はキッズリーダーの認定  
が認められたためキッズリーダー)と  
呼び、事前に必ずインストラクター  
によるレクチャーを受講させている  
とのこと。参加しているのは、千葉  
県立千城台高校・県立柏井高校・県



1999年からサッカーの楽しさや遊び方を  
伝えている「キッズサッカーコミット」

立生浜高校・県立船橋高校・県立館  
山高校・県立八千代高校・県立幕張  
総合高校・県立千葉北高校・県立  
京葉高校・千葉市立千葉高校・南  
房総市立千倉中学校・私立桜林高  
校・千葉明德学園高校・国際武道大  
学・江戸川大学の生徒や関係者ら。  
2009年度は、3月に1回を目  
標に開催できるように計画している。  
「中・高校生の人間教育といっ  
た意味からも、キッズ世代とわか  
わりを持つことは必要なこと。子  
どもたちはお兄さんやお姉さんた  
ちとともにボールに触れ、巧みな  
動きに感激しあがられる。そして、  
あがれの的となった中・高校生  
は照れを隠しながらも、この上な  
い優しい笑顔を見せ、『また会おう  
ね!』と握手の手を差し出す。そん  
な経験を通じて中・高校生の選手  
たちも、サッカーにはこんな楽し  
み、可能性があるのか、と感じて  
くれる。多くの指導者がこの活動  
に賛同してくれている」と矢後和夫  
キッズ委員長は話してくれた。